

令和3年度 中学校教育課程研究協議会〔社会科〕

令和3年7月 岐阜県教育委員会

社会的な(社会的事象の)見方・考え方を働かせる

社会的な(社会的事象の)見方・考え方とは

社会的事象の意味や意義、特色や相互の関連を考察したり、社会に見られる課題を把握して、その解決に向けて構想したりする際の「視点や方法(考え方)」

視点とは・・・「位置や空間的な広がり」、「時期や時間の経過」、「事象や人々の相互関係」。

【位置や空間的な広がり】	【時期や時間の経過】	【事象や人々の相互関係】
地理的位置、分布、地形、環境、気候、範囲、地域、構成、自然条件、社会的条件、土地利用 など	時代、起源、由来、背景、変化、発展、継承、維持、向上、計画、持続可能性 など	工夫、努力、願い、業績、働き、つながり、関わり、仕組み、協力、連携、対策・事業、役割、影響、多様性と共生 など

(中教審「社会科、地理歴史科、公民科ワーキンググループ」補足資料より)

方法とは・・・社会的事象を捉え、比較・分類したり総合したりして、地域の人々や国民の生活と関連付けたりすること。

社会的な見方・考え方を働かせるとは

「視点や方法(考え方)を用いて課題を追究したり解決したりする学び方を表すとともに、これを用いることにより児童生徒の「社会的な見方・考え方」が鍛えられていくこと。

社会的な見方・考え方が表出する児童生徒の様相と教師の指導の見取り方

社会的な見方・考え方が表出する様相

- 事実を具体化している
- 事実を比較・関連・総合している
- 人物の思いや願い、努力や工夫を考えている
- 事実を自分との関わりで考えている
- 事実を一般化・概念化している
- 事実を転用・応用している

社会的な見方・考え方の見取り方

- 根拠立てて話しているか
- 具体的に話しているか
- 自分の考えや判断したことを話しているか
- 他の児童生徒の考えや判断と違いはあるか
- 自らの社会認識を深めているか

社会的な見方・考え方を働かせるための「問い」の例

- ・どのような場所にあるか。どのように広がっているか。〔分布、地域、範囲(位置や空間的な広がり)〕
- ・なぜ始まったのか。どのように変わってきたのか。〔起源、変化、継承(時期や時間の経過)〕
- ・どのようなつながりがあるか。なぜこのような協力が必要か。〔工夫、関わり協力(事象や人々の相互関係)〕
- ・どのような違いや共通点があるか。〔比較・分類・総合〕
- ・どのような役割を果たしているか。〔地域の人々や国民の生活と関連付け〕

(参考「小(中)学校学習指導要領(平成29年告示)解説 社会編」)

社会科における ICT (1人1台端末等) の有効な活用

「見方・考え方」を働かせることについて、学習指導要領（平成29年告示）解説 社会編では「教科の本質的な学びを促し、深い学びを実現するための思考力、判断力の育成はもとより、生きて働く知識の習得に不可欠である」「主体的に学習に取り組む態度にも作用する」「資質・能力全体に関わるもの」と示されています。

また、ICTの活用は、この先の社会を生きる子どもたちにとって重要な「資質・能力」でもありません。学びを深める上でも、「資質・能力」の育成という観点からも、「活用の可能性」「有効な活用の在り方」を共に探っていきましょう。

<ICT (1人1台端末等) の機能例>

※標準インストール・無料インストール・Webブラウザで使用・無償提供のもの

- 写真・動画撮影 (QRコード読み取り) □画像・動画編集 □地図作成
- 学習支援ソフト □ファイル共有 □プレゼンテーションソフト
- コメント □チャット □アンケート □表計算ソフト □文書作成ソフト
- 電子メール □ウェブ会議 □図形作成 □音楽作成 □プログラミング

(文部科学省「1人1台端末の活用事例のGIGAスクール構想における標準仕様について」)

<社会科の学習における ICT の主な活用例>

単元における ICT の主な活用	単位時間における ICT の主な活用
<ul style="list-style-type: none"> ■学習課題を設定する。 	<p>【問題発見の場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■効果的に社会的事象を捉え、課題意識を高める。 <input type="text" value="プレゼンテーションソフト"/> <input type="text" value="写真・動画"/> ＊変化、変容、広がりをつかえる、比較する
<ul style="list-style-type: none"> ■課題解決への見通しを立てる。 	<p>【課題追究の場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■必要な情報を、自らの意思で収集、整理、分析、蓄積、加工する。 <input type="text" value="ウェブブラウザ"/> <input type="text" value="共有フォルダ"/> <input type="text" value="資料(画像)編集"/> <input type="text" value="地図作成"/> ＊比較・関連・総合する(調べる、考える)
<ul style="list-style-type: none"> ■収集した情報を読み取ったり、分類・整理してまとめたりする。 	<p>【課題解決の場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■仲間の考え(提示した資料)と、比較・関連・総合し、自分の考えを深める。 <input type="text" value="ファイル共有"/> <input type="text" value="学習支援ソフト"/> <input type="text" value="アンケート"/> <input type="text" value="チャット"/> ＊表現する、伝え合う、議論する、再構成する
<ul style="list-style-type: none"> ■自分の考えを表現する。 	<p>【振り返りの場面】</p> <ul style="list-style-type: none"> ■仲間との交流を踏まえ、自らの考えを再構成する。 <input type="text" value="文書作成ソフト"/> <input type="text" value="コメント"/> ＊学びを調整する、振り返る
<ul style="list-style-type: none"> ■複数の意見や考えを議論して整理し、協働的に課題解決を図る。 	
<ul style="list-style-type: none"> ■よりよい社会の形成に向けて社会参画の在り方を協働的に構想する。 	
<ul style="list-style-type: none"> ■個人やグループで学びの成果を表す資料や作品を制作する。 	

(文部科学省「教育の情報化に関する手引(追補版)」令和2年6月を参考に作成)

「教科等横断的な視点に立った資質・能力」を育成するための ICT (1人1台端末等) の活用

- 他の教科等で学習した、ICT端末を活用した表現活動や情報活用を行う。
- 現代的な諸課題に関する教科等横断的な資料等をICT端末で編集し、自らの考えをまとめたり、表現したりする。
- 「総合的な学習の時間」の「探究的な学習の過程」において、各教科等の学習内容をICT端末で関連付け、自ら発見した問題の解決に生かす。

協働学習支援ツールの有効な活用・ICT を活用する際の留意点

1 協働学習支援ツールの有効な活用

過程	単位時間あたりの主な活用
課題把握	<p>◇前時に学んだことや社会的事象に関する資料等を ICT 端末に送信し、既習内容を確認する。</p> <p>◇ICT 端末に送信されたスライドや複数の資料等を読み取り、気付いたことや疑問に思うことを話し合い、学習課題の焦点化を図る。</p>
課題追究	<p>◇共有フォルダに保存しておいた資料等を ICT 端末で読み込んで、資料等を読み取り、気付いたことや考えたことを ICT 端末上に書き込む。(学習ノートに記述し、カメラ機能で撮影することも考えられる。)</p> <p>◇協働学習支援ツールから Web サイトを開き、学習問題に関連する資料を収集し、気付いたことや考えたことを書き込む。</p> 
課題解決	<p>◇各自が ICT 端末で入力した気付きや考えについて、スライド等を提示して説明し合い、学習問題について話し合う。</p> <p>◇ICT 端末で作成した スライド等を共有し、グループ等で協働してスライドを作成しながら話し合う。</p> 
振り返り	<p>◇ICT 端末に本時の学習内容に関連する資料等を取り込んで、文書作成ソフトを用いて 学習のまとめを入力する。</p> <p>◇ICT 端末の学習ノートに記述した学習のまとめを カメラ機能で撮影し、本時の資料等を挿入して保存する。</p> <p>◇前単元や他教科等の学習と関連付けた資料から考えを深めたり、復習問題に取り組んだりするとともに、本時の学びの成果を生かして実際の生活や現代社会の課題について考える課題を提示する。</p>

2 ICT を活用する際の留意点

(1) 児童生徒が正しく理解できるための資料の取扱いについて

- ・活用する資料等の出典先を明らかにするなど、著作権者に配慮した情報の活用を行う。
- ・情報を活用する際には、情報の信憑性や妥当性等について留意する。

(2) 児童生徒が自ら活用できるための場の設定や交流の仕方について

- ・単元を通して、児童生徒が様々な情報収集の手段を用いて資料等から追究できるようにする。
- ・児童生徒が、ICT を 1 つの手段として学習課題の解決の見通しを立てられるようにする。
- ・交流の仕方については、誰もが視覚的に見やすく示すための学び方を工夫する。
- ・全ての児童生徒が言語活動を行えるよう説明時間や対話の形態の工夫をする。

社会

ICT を効果的に 活用した教材例 (中)

<個別最適な学び>

- ・共有フォルダに保存した資料や URL 等を活用して課題追究する。
- ・思考ツールを用いて、考えを視覚化しながら整理する。

<協働的な学び>

- ・ICT 端末や大型提示装置などで視覚的に互いの考えを共有するとともに、思考ツールを用いて意見交流を行い、考えを深める。

過程	主な活用方法	指導の留意点
課題把握	<p>【課題】田沼意次と松平定信は、どのような政策で幕政の問題を解決しようとしたのか。</p> <p>活用① 前時の板書 (ICT 端末に表示) とノートから、幕政の問題と享保の改革について振り返る。</p> <p>活用② ICT 端末に送付された導入資料を読み取る。</p>	<p>【協働学習支援ツールを活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・前時の板書を生徒の ICT 端末へ送信し、「徳川吉宗は、幕政のどんな問題に対して改革を行ったか。」と問い、学びを確認する。 ・単元で用いた資料を単位時間ごとに共有フォルダにまとめておく。
	<p>【個人追究】田沼の政治、寛政の改革について調べる。</p> <p>活用③ 共有フォルダの資料や Web サイトを参考に、2 人の政策のねらい、内容、効果を調べる。</p> <p>活用④ 調べた内容をカードに書き込み、思考ツールの「Xチャート」を用いて、農業、商工業、文化・生活の視点で分類しながら考えをまとめる</p> <p>【小集団交流】同じ人物・政策を調べた仲間と交流し、考えた内容を話し合う。</p> <p>活用⑤ 調べた人物・政策について、色分けして作成したカードを教師や仲間の ICT 端末に送信し、根拠となる資料を示しながら、自分の考えを説明する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・資料名や URL をカードに記録して、根拠を明らかにする。 <p>【ICT 端末で思考ツールを活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・政策の目的と内容、効果の関係について考える場合は、「フィッシュボーン図」、「情報分析チャート」等が有効である。 ・自分が調べ、考えた人物を色分けしたカードに書き、「提出箱」に提出する。大型提示装置に投影された一覧を基に、交流相手を選ぶ。(追究のための小集団づくり)
課題解決	<p>【全体交流】2人の各政策の共通点・相違点を整理し、改革の成果と問題点を考える。</p> <p>活用⑥ 思考ツール「PMIシート」を用いて2人の政策について、当時の時代背景やその後の社会の変化等から評価し、考えを深める。</p>	<p>【ICT 端末で思考ツールを活用】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複数の事柄について、視覚的に共有しながら比較、評価するには、「PMIシート」、「座標軸」、「データチャート」等が有効である。
	<p>【まとめ】学びの成果を振り返る。</p> <p>活用⑦ ノート記述を ICT 端末で撮影し、カードとともに共有フォルダに送信する。(教師による価値付け)</p> <p>活用⑧ 家庭学習において、社会における課題の解決に取り組んだ人物の業績について、既習の資料等を基にプレゼンテーションソフトで作成する。</p>	<p>【カメラやドキュメントで記録】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業のまとめ (写真) と振り返り (カード) を個人フォルダへ保存する。単元課題についての気付きや深まりをカードに入力、保存して、ポートフォリオを作成する。 ・見方・考え方を働かせ、学びの成果を既習内容と関連付ける。
振り返り		

ICT の効果的な活用例～中学校～

活用① 視点に基づく個の追究

【調査活動】

教師があらかじめ作成したワークシートや資料を送付したり、生徒が教科書等の資料や Web サイトにアクセスできる URL が保存されている共有フォルダを活用したりして、前時に学習した縄文時代の暮らしと比較しながら、弥生時代の暮らしの特色を明らかにする。生徒は、必要に応じて、辞書ツール、過去のノートのアーカイブなども用いて学習課題について調べる。



【留意事項】

- ・ 地理的スキルを育成するために、共通して活用する資料を指定するなどの工夫をする。
- ・ 年表、地図など、複数の学習で活用できる資料等をあらかじめフォルダに保存しておく。

活用② 仲間と協働的に問題解決

【発表や話し合い】

「衣食住」の視点から世界の気候帯の特色を各自が調査し、作成したプレゼンテーション資料を提示し合いながら、共通点や相違点について話し合う。その後、グループの仲間が調査した資料を関連付けたり、交流から気付いたことを踏まえたりしながら、さらにプレゼンテーションを編集し、気候帯の特色について明らかにする。



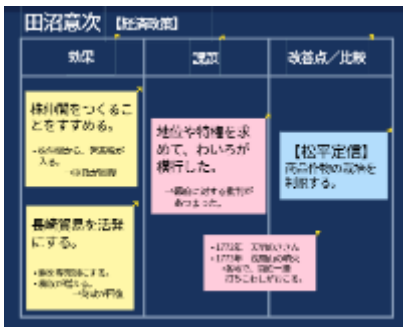
【留意事項】

- ・ 調査した資料や、グループで話し合った内容について、互いの地理的な見方・考え方に気付くよう指導する。

活用③ 思考ツールの活用

【思考を深める場】

資料から読み取った社会的事象をカードに記入する。それを基に、課題解決に有効な思考ツールを用いて、考えを深める。個の端末で練った考えをペアや小集団で共有したり、大型提示装置で学級全体に示したりすることで、多面的・多角的に考察することができる。



【留意事項】

- ・ 学習内容や学習過程に応じて、適切な思考ツールを選択できるように、思考ツールと期待される効果について、生徒と共有する。

活用④ デジタルポートフォリオ

【振り返り・評価】

学習のまとめや振り返りを端末で撮影したり、カードに入力したりして、フォルダに保存するとともに、仲間と共有することで、考えを広めたり、深めたりする。その際、単元の学習課題と関連付けた気付きや考えなども記入し、本時の学びの成果を明らかにする。また、教師は、アンケート機能等を活用し、生徒の学習状況を把握し、個に応じた支援に活かすことができる。



【留意事項】

- ・ 学習のまとめなどを全体へ提示する際は、生徒のプライバシーに配慮して活用する。

社会科における学習評価

～「指導と評価の一体化」と「主体的に学習に取り組む態度」を育成する社会科指導～

指導と評価の一体化

新学習指導要領では、学習評価を真に意味のあるものとし、指導と評価の一体化を実現するために、次の三点を学習評価の改善の基本的な方向性とししました。

- ① 児童生徒の学習改善につながるものにしていくこと
 - ② 教師の学習改善につながるものにしていくこと
 - ③ これまで慣行として行われてきたことでも、必要性・妥当性が認められないものは見直していくこと
- その実現のため、以下のことに留意して指導と評価を計画・実施していきます。

- ◎ 「指導（学習改善）のための評価」と「評定に用いる評価」の両面を実施すること
- ◎ 「内容のまとめり（単元）」ごとに評価規準を設定すること
(すべての単位時間で「知識・技能」「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」の3観点の評価するわけではありません。)
- ◎ 社会科においては、学習指導要領に示された「内容のまとめり」は複数の内容に分かれ、その内容ごとに単元を構成するものがほとんどです。そのため、単元ごとに単元構成や学習過程に沿った具体的な評価規準を作成していくことになります。
(参考：国立教育政策研究所『指導と評価の一体化』のための学習評価に関する参考資料。)

「主体的に学習に取り組む態度」の評価

社会科において、育成したい三つの資質・能力のうちの一つ「学びに向かう力、人間性等」については、①「主体的に学習に取り組む態度」として観点別学習状況の評価を通じて見取る部分と、②観点別学習状況の評価や評定になじまず、個人内評価を通して見取る部分があります。すなわち、②については観点別学習状況の対象外とする必要があります。

また、「主体的に学習に取り組む態度」に係る評価の観点の趣旨として、次の二つの側面があります。

- ア 知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた**粘り強い取組**を行おうとしている側面
- イ アの粘り強い取組を行う中で、**自らの学習を調整**しようとする側面

【社会科における「主体的に学習に取り組む態度」が見られる学びの姿（例）】

過程	「主体的に学習に取り組む態度」を見取る場	想定される姿と評価の方法
課題把握	<ul style="list-style-type: none"> ・ 社会的事象から自ら問いを見いだす。 ・ 問題解決のための見通しをもつ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 導入の資料に関心をもち、自ら課題を見つけ出そうとしている。(発言、つぶやき) ・ 課題について予想し、追究する見通しをもっている。(記述、発言)
課題追究	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習問題を解決するために適切な資料等を選択する。 ・ これまでの学びや生活経験等を関連付けて考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料から読み取った事実を課題につなげようとしている。(記述、観察) ・ 生活経験や既習事項等と比べて課題追究をしようとしている。(記述、発言)
課題解決	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他の児童生徒の意見や考えを踏まえて、学習問題について考察する。 ・ 本時の内容について概念等に関する知識や技能からまとめる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 交流の事前と事後で、考えを深めたり、変容させたりしている。(記述、発言) ・ 習得した知識を活用し、発言したり、記述したりしている。(記述、発言)
振り返り	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の経緯を振り返ったり、単元の学習と関連付けたりして考える。 ・ 学習を振り返って、さらに調べたいことを考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 単元を貫く課題に対して、学習したことを活用してまとめている。(記述、ワークシート) ・ 自分の意見や疑問なども含めながら、課題についてまとめている。(記述、発言)